1. **CSSを知ろう**

HTMLは文章を書いたり、記述した内容がブラウザ側でしっかり認識されるようにする

いわば、根幹的な言語だ。

それに対して、CSSはHTMLで記述した文章に**色を付けたり、配置を指定したり、フォントを**

**指定した**りデザインのほぼ全てがCSSで記述可能だ。

HTMLで役割を決めて、CSSで要素のデザインを決めていると思ってくれればよい。

　CSSでは主に**何をどう変えたいのか**記述します。

例えばある文字の色を赤にしたいとします。

HTMLで<div>で囲ってあげてCSSで以下の様に記述することで赤色にできます。



ここで今後必要になる用語を説明します。

ここでのdiv、つまり**何を**に当たる部分をセレクタと呼びます。

Selectが選択という意味からも理解できますね。

またここでの**どう変えたいか**が、変更内容を表すColorだったりwidth(幅),height(高さ)

だったりします。これを**プロパティー**と呼びます。

プロパティーの後には必ず、具体的な数値や色などが来ます。

この部分は値と呼びます。

ここでいう、redですね。

プロパティーの後ろに必ず:コロンがきます。値の後は;が必ず置かれます。

※複数プロパティを記述しない場合、値の後の;は必須ではないが、今後

プロパティーを追加する可能性を鑑み、;はつけとくべき。その為本サイトではこのように説明する。

1. **CSSの書き方は三種類ある**

CSSの書き方は大きくわけて三種類あります。

まずは一番使われる外部スタイルシート方式から説明します。

・外部スタイルシート方式

これは、HTMlファイルとは別にCSSファイルを作り、記述していく方式です。  
もちろん、外部ファイルで記述していくわけですから、HTMlファイルにCSSを読み込みさせる記述が必須となります。

テキストエディター(内部リンク)で記述し、拡張子.cssを付けて保存すること

でPC側がCSSファイルであると認識してくれる。

<link rel="stylesheet" href="ファイル名.css">

HTMLファイルの<head>タグの中に上記のように記述すると読み込みされる。

HTMLファイルと同じフォルダ内にCSSファイルがない場合、パスを指定してあげる必要がある。詳しくは別途このサイトを参照してほしい。絶対パスと相対パス(内部リンク)

この方法が一番実用的である。何故ならCSSとHTMLの記述を分けて管理することになるので、コードが見やすくなり可読性が高まるからだ。

また、部分ごとにCSSファイルも分けることができるので、管理がしやすくなる。

読み込みするCSSファイルは一つと決まっていないのだ、複数ファイル読み込み可能である。

本サイトも、ヘッダーやフッターといったどのページでも共通表示される部分に関しては

それぞれ独立したファイルを作りそれを読み込みさせることで、作業の効率化を図った。

　情報は日々変わるものである、必ずサイトの内容を変える日はやってくる。

・内部スタイルシート

この方法はHTMLファイル内に

<style>

div {

Font-size:1.5rem;

}

Color:red;

</style>

のようにstyleタグの中にCSSを記述する方法。

こちらはHTMLファイルの記述量が増えるため、おすすめはしない。

　　　　　　　・インラインスタイルシート

インラインスタイル

→htmlのタグの中にかける

<div style=”color:’red’; font-size:80px;”>

</div>

タグの属性を用い、HTMLファイル内に記述する。

たまに使う何故ならデザインの詳細度が高いため、ここで記述したデザインが優先される。

局所性が高い、限定的なデザインを上書きしたい場合に使用する記述方法である。

外部すたいるシート以外は、実用性に欠けるため基本的に外部スタイルシートだけ抑えれば問題ない。